

国語 2 物語を読んで、推薦する（那須田淳「銀色の幻想」）

2

森田さんの学級では、不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達とせいせんし合うことにしました。森田さんは、「銀色の幻想」という題名の物語を選んで読み、気になるところにふせんを貼っています。次は、「物語のこれまでのあらすじ」と「物語の一部」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



森田さん

【物語のこれまでのあらすじ】

学校の帰りに、自分と同じ名前の子のH.I.R.O.K.I.模型店を見つけた。一歩その店の入口に近づくと、ドアが音もなく開き、カウンターのすみに座っている老人が、やけになれなく「よわ」と手をあげた。店の中は、宇宙船などの模型で占められていた。

【物語の一部】※

部アから才や、……………部①から⑨は、あとの問いで取り上げられます。

「ここ、宇宙ものの専門店なの？」
とさくと、老人は、

「まあ、そうだ。わしは、他のものには興味がないもんでな。」

「へえ、ぼくもそう。」

「ぼくは、うれしくなって、ランドセルを床におき、模型に手をのびした。」

「展示品にさわってもいい？」

「もちろん。」

緑なし眼鏡の奥で老人は、目を細めた。

「いま、きみが手にしたやつなんて、なかなかの出来だろう。基本的なデザインはわしが考えたんじゃないよ。」

それは、全長七センチ、直径三センチほどの卵型の宇宙船の模型で、船首の円錐も、船尾の七つの尾翼も、船体の真ん中につけた大きな窓の窓も、ア先週、図工の時間に、ぼくが描いた宇宙船の絵にそっくりだった。

つい夢中になって、

「これ、もしかしたら二人乗り？」

「そうだよ。」と、老人はこともなげに言った。

「でさ、操縦室のほかに、キャビンはひとつ、お風呂とトイレとキッチンがついている？」

「さよう。」

「二年分の食料がつめる貯蔵庫は？」

「あるよ。」

老人は得意そうにうなずいた。

「すごいや。」

ふせん

ぼくは、中の様子を見ようと、模型の窓をのぞきこんだ。紺色のシールドがかけられていて、はつきりとはなかったけれど、ソファやテーブルが見えた。

「いいなあ。こんなではんどうに飛べたらなあ。」

「この宇宙船は、星と星を旅したり、過去と未来をいつたりきりすることができると、老人は言う。」

ぼくはうっとりしてしまった。

一億年前の恐竜にも会ってみたいし、一千年後の未来都市も見てみたい。それがぼくの夢だった。

「時間の壁を越えさせればいいんだよ。」

と、老人は言った。

「ただ、時間の壁を破るには、ものすごいスピードが必要なのじゃ。超光速といつてな、光よりも速くとはなければならない。」

「じゃあそういう装置を發明すればいいの？ ようし、いつかぼくが作るうって。」

①「ぼくは、模型の宇宙船をださした。」

「ねえ、おじいちゃん、この模型はいくらぐらいするの？」

これだけ精密なものだったら、ずいぶん高いにちがいない。船体も大きいわりには、軽くてふつうのプラスチック製とは思えなかった。時金をはたいても買えるかどうか……。

「大学の研究室で作ったからなあ……。」

と、老人はつぶやいて、電卓をはじいた。イ「ぼくは、電卓の緑色の液晶表示板をのぞきこんだ。息がとまりそうだった。オレンジ色の数字は、あんまりに天文学的だったから。」

「ぼくには、ぜんぜん手がでないや。」

と、うなだれていると、老人は、ぼくの肩をたたいて、

「模型よりも、本物を見たくないかい？」

「ほんもの？」

「裏のガレージにある。」

ぼくは気が動転してしまった。

「ほんものって？」

「まあ、ついておいで。」

ウ老人は、ロボットに店番を頼むと、よつこらしよと立ちあがり、裏口を開けて、ぼくを手招きした。

店の裏は野原になっていて、いちめんのススキの海の中にビニールのドーム型ガレージがあった。

老人は、ススキの穂をかきわけて進んだ。

かすかに秋の花の匂いがした。

ガレージはずいぶん大きなもので、老人がパチッと指を二回鳴らすと、ドームの屋根が左右にゆくりと開いていった。

卵の形をした銀色の船体が横たわっている。ゆるやかな曲線が、午後の日差しをほんしやしてまばゆく輝いた。

パチッと老人の指がもう一度、鳴った。

すると、船体からタラップがおりてきて、ドアがあいた。

「ぼくは、老人のあとから宇宙船に足を踏み入れた。」

通路をはさんでキャビンとコックピットに分かれている。

「これもおじいちゃんを作ったの。」

ぼくの声は、少し震えていた。

老人はにっこりした。

コックピットは、とてもシンプルだった。リクライニング式の操縦席の前面のパネルには、コンピュータが埋めこまれて、ボールと小さな振動音をたてていた。

ふせん

キャビンは銀色で統一されたシックな空間で、六畳ほど。ベッドをかねたソファがふたつ壁ぎわに置かれ、真ん中に楕円形のテーブルがある。そして廊下側の壁には、「一枚の老人のポートレートが飾ってあった。

写真の老人は、きちんとしたタキシードを着てすましかえていたけれど、まさしくぼくの隣にいる老人だった。

「これは、わしが、超光速推進（スペーススワープ）装置の発明によって、賞をもらったときの写真なんだ。授賞式が六十九歳の誕生日と重なったりしたもんだから、記念に撮ってもらったんだよ。」

「へえ、おじいちゃんには有名人なんだね。」

ぼくは言って、ポートレートの額縁に刻まれた文字を見て、どきっとした。

（ヒロキ・タチバナ教授・科学アカデミー賞受賞記念）と、あったのだ。

「ぼくと同じ名前だ。」

オ同姓同名か……。そんなことは世間ではいくらでもあるが、やはり、ぼくは老人にさらに親近感を深めて、笑いかけた。

宇宙船の外に出ると、老人は言った。

「このワンダーボール一号、気に入ったかね？ この船を見せたかったんだよ。」

ワンダーボール一号。

それは、ぼくが図工の時間に描いた宇宙船、未来から過去へ、過去から未来へ、時間の壁を越えて自由に飛翔するあの宇宙船に、ひそかに付けた名前だ。②だれにも教えたことがなかったのに。

ぼくはきゆうに不安を感じて、立ちどまった。

③（ひょっとしたら、老人は六十年未来からやってきたぼく？）

そのとき、老人が、うしろで、

「じゃあな。」

とつぶやいたようだった。

ふりかえると、老人も、宇宙船も模型屋もあとかたもなく消えていた。

ただ、透明な空の青さのなかで、ススキの穂波が銀色に光り、風にそよいでいるだけだった。

（耶須田淳「銀色の幻想」による。）

― 森田さんは、ふせんをはったところをもう一度読んでいます。次の(1)と(2)の問いに答えましょう。

(1) 森田さんは、……部①に表れている「ぼく」の気持ちについて考えています。「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを、次の1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

1 模型の宇宙船が手に入らない悲しさ

2 本物の宇宙船を手に入れた喜び

3 本物の宇宙船を作ることへのあこがれ

4 本物の宇宙船を作ることへの不安

5 模型の宇宙船を見た感動

(2) 森田さんは、……部②と③から、「老人」は未来の「ぼく」であると考え、他にもそのことが分かるところを探しています。「老人」が未来の「ぼく」であると考えられるところとして適切なものを、次の1から5までのの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。

1 「物語の一部」の――部ア

2 「物語の一部」の――部イ

3 「物語の一部」の――部ウ

4 「物語の一部」の――部エ

5 「物語の一部」の――部オ

設問一(1)

趣旨

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
②	1 3・5と解答しているもの（順不同）	68.6	◎
	2 3と解答しているが、5と解答していないもの	17.0	
	3 5と解答しているが、3と解答していないもの	10.7	
	99 上記以外の解答	2.8	
	0 無解答	1.0	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は68.6%であった。解答類型2と解答類型3の反応率も踏まえると、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることに課題があると考えられる。
- 解答類型2と、解答類型3の反応率の合計は27.7%である。これらは、「ぼく」の「本物の宇宙船を作ることへのあこがれ」か「模型の宇宙船を見た感動」かのどちらかしか捉えることができなかったと考えられる。この中には、登場人物の行動や気持ちについて、物語全体を通して、複数の叙述を基に捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える

- 登場人物の行動の背景には、その行動に至るまでの気持ちがある場合が多い。そうした登場人物の気持ちを、行動や会話、地の文などの叙述を基に捉えていくことが求められる。

本設問において、森田さんは、付箋を貼ったところをもう一度読み、友達に推薦する内容を考えている。それは、「ぼく」が「模型の宇宙船をだきしめた」ときの気持ちを明らかにすることが、物語を推薦する上で必要だと考えたからである。本設問では、「ぼくはうっとりしてしまった。」「ようし、いつかぼくが作ろうっと。」など、複数の叙述を基に、「ぼく」が「模型の宇宙船をだきしめた」ときの気持ちを捉えることが求められている。

学習指導に当たっては、本設問のように、登場人物の行動や気持ちを捉えることが必要となる言語活動を設定し、物語全体を見通して、複数の叙述を基に行動や気持ちを捉えることができるように指導することが大切である。その際に、「どこからそう思ったのか」など、捉えたことの基になる叙述を明らかにすることを指導すると効果的である。児童が複数の叙述に着目することができるように、捉えたことと基にした叙述について交流する活動を設定することも考えられる。

設問一(2)

趣旨

登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
②	1	1・5と解答しているもの（順不同）	70.8
	2	1と解答しているが、5と解答していないもの	7.1
	3	5と解答しているが、1と解答していないもの	13.5
	99	上記以外の解答	7.1
	0	無解答	1.5

2. 分析結果と課題

- 解答類型2と、解答類型3の反応率の合計は20.6%である。これらは、「『ぼく』しか知り得ないであろうことを『老人』が知っているかもしれないと考えられる描写」か、「『老人』と『ぼく』に一致する点があると考えられる描写」のどちらかしか捉えることができなかったと考えられる。この中には、登場人物の相互関係について、物語全体を通して、複数の描写を基に捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

3. 学習指導に当たって

登場人物の相互関係について、描写を基に捉える

- 登場人物の相互関係を捉えるためには、描写に着目しながら読み進めていくことが重要である。登場人物の相互関係は直接的に描写されている場合もあるが、暗示的に表現されている場合もある。このような表現の仕方にも注意し、想像を豊かにしながら読むことが大切になる。

本設問では、「老人」は未来の「ぼく」であるかもしれないという二人の関係が分かる描写を捉える必要がある。森田さんは、推薦する文章で、「ぼく」と「老人」の相互関係が描かれていることを伝えようとしており、そのために、物語全体をもう一度読み、複数の描写に着目して相互関係を捉えようとしている。

学習指導に当たっては、物語の一部分だけを取り上げて登場人物の相互関係について考えるのではなく、物語全体を通して、相互関係について描かれている複数の描写に着目しながら読むことができるように指導することが効果的である。物語の全文が一枚の用紙に掲載されたシートを活用したり、登場人物の相互関係を物語の展開に合わせて人物相関図などに表したりすることなども考えられる。

設問二

趣旨

人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
②	二 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① この物語から伝わってくることを考えて書いている。 ② 10字以上、30字以内で書いている。 ~~~~~ (正答例) ・ 夢をもち続けられ、いつかかなえられるということです。(26字) ・ 今を大切にすることが明るい未来につながるということです。(28字) ・ 好きなことをもつ大切さです。(14字)		
	1 条件①、②を満たしているもの	68.5	◎
	2 条件①を満たしているが、条件②は満たしていないもの	0.3	
	99 上記以外の解答	19.1	
	0 無解答	12.1	

2. 分析結果と課題

○ 本設問の正答率は68.5%であった。解答類型99と解答類型0の反応率も踏まえると、人物像や物語の全体像を具体的に想像することに課題があると考えられる。設問三の正答率も踏まえると、「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」のエに関する指導事項の定着に課題があると考えられる。

○ 解答類型1の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 夢をもつことが大切だということです。(18字)
- ・ 好きなことを続けることが、未来の役に立つということです。(28字)
- ・ 自分の夢を想像する楽しさと夢に向かって進む勇氣です。(26字)
- ・ 想像したことが現実になるかもしれないという希望です。(26字)
- ・ 夢中になったことはきっと未来にも続いていくということです。(29字)
- ・ 未来の自分が今の自分を応援してくれているということです。(29字)
- ・ 未来の自分も活やくしているかもしれないということです。(27字)

このように解答した児童は、森田さんが、前向きな気持ちになることを挙げていることを踏まえて、この物語から伝わってくることを考えて書いていると考えられる。この中には、「うちゅう船を作った『老人』が「未来の『ぼく』かもしれない」という関係などを手掛かりにして、物語の全体像を具体的に想像することができたと考えられる解答が見られた。

○ 解答類型99の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 今と未来はつながっていないということです。(21字)
- ・ 未来からきたおばあさんが教えてくれた努力するすばらしさです。(30字)
- ・ 過去や未来にいけるうちゅう船を作りたいということです。(27字)
- ・ ふりかえると老人も宇宙船もあとかたもなく消えていたことです。(30字)

このように解答した児童は、森田さんが、前向きな気持ちになることを挙げていることを踏まえて書いていなかったり、【物語の一部】の内容に基づいて書いていなかったりしている。否定的な内容に終始した解答や物語の内容を捉えることができていない解答、【森田さんの文章】や【物語の一部】の付箋が貼ってある部分などを写したと考えられる解答などが見られた。

このことから、森田さんが前向きな気持ちになることを挙げていることを踏まえ、「ぼく」と「老人」の相互関係や「ぼく」の人物像などから物語の全体像を具体的に想像し、この物語から伝わってくることをまとめることができなかったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

人物像や物語の全体像を具体的に想像する

○ 登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断することが必要である。また、物語の全体像は、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基にした物語の世界や人物像などを豊かに想像したり、登場人物の相互関係を手掛かりにして考えたりすることで捉えられる。このように、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが、物語の全体像を具体的に想像するために重要である。

本設問では、森田さんが物語を推薦する理由として、前向きな気持ちになることを挙げている。それは、「老人」に出会った「ぼく」を通して、物語全体から感じていることである。森田さんは、「ぼく」と「老人」との相互関係や「ぼく」の人物像を手掛かりにして、物語の全体像を具体的に想像して推薦する文章に書いている。

学習指導に当たっては、着目した叙述を複数取り上げ、そこから考えられることをノートやワークシートにまとめたり、考えたことを交流したりすることで物語の全体像を明確にすることが効果的である。

設問三

趣旨

表現の効果を考えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
② 三	1 1 と解答しているもの	8.4	
	2 2 と解答しているもの	59.4	◎
	3 3 と解答しているもの	21.1	
	4 4 と解答しているもの	7.7	
	99 上記以外の解答	0.3	
	0 無解答	3.2	

2. 分析結果と課題

- 本設問の正答率は59.4%であった。表現の効果を考えることに課題があると考えられる。
- 解答類型1は、色の表現を使っていることを捉えることはできているが、季節が変わる展開ではないため、物語の全体像と関わらせながら表現の効果を考えることができなかったと考えられる。
- 解答類型3は、空と風の表現を使っていることを捉えることはできたが、「ぼく」が宇宙に行った話ではないため、物語の全体像と関わらせながら表現の効果を考えることができなかったと考えられる。

3. 学習指導に当たって

表現の効果を考える

- 表現の効果を考えるとは、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことである。
本設問では、山村さんは物語全体を通して、「ぼく」が出会った「老人」が、過去や未来に行ける宇宙船を作った未来の「ぼく」かもしれないと思わせる表現に着目しながら読み進めている。そして、「ただ、透明な空の青さのなかで、ススキの穂波が銀色に光り、風にそよいでいるだけだった。」という最後の一文が、「ぼく」が体験した信じられないような出来事を印象付けているという表現の効果について考えている。
学習指導に当たっては、第3学年及び第4学年の「エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること」と、第5学年及び第6学年の「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を系統立てて指導することが大切である。また、表現の効果を考えることができるようにするためには、感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目して読むことを指導すると効果的である。

本問全体の学習指導に当たって
授業アイデア例

「不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達とすいせんし合おう」 ～登場人物の相互関係や心情に着目し、人物像や物語の全体像を想像する～		〈実施対象学年〉 第5・6学年
本授業アイデア例では、令和4年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語2で取り上げた物語「銀色の幻想」を活用した指導事例を単元の学習の流れに沿って紹介します。		
◇ 教師は、単元で取り上げる指導事項を明確にし、児童の学習の経験などを踏まえて、単元の学習の流れを考えています。		
不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達と推薦し合う	【学習の流れ】 選んだ本を活用する学習の例	【学習の流れ（別案）】 共通教材を活用する学習の例
	① 学習の見通しをもつ。 ② 気になる本を数冊読み、自分が推薦する物語を決める。 ③ 選んだ物語を読み、気になるところに付箋を貼り、登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉える。 ④⑤ 物語の全体像を具体的に想像し、推薦する文章を書く。 ⑥ 友達が書いた推薦する文章を読んで交流する。 ⑦ 友達が推薦した物語を読み、単元全体を振り返る。	① 学習の見通しをもつ。 ② 共通教材（教科書教材等）を読み、友達に推薦することを意識して気になるところに付箋を貼り、交流する。 ③ 登場人物の相互関係について描写を基に捉える。 ④⑤ 物語の全体像について考え、推薦する文章を書く。 ⑥ 友達が書いた推薦する文章を読んで交流し、単元全体を振り返る。
	この単元では、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の「精査・解釈」に関する指導事項を重点的に取り上げ、定着を図ることにしよう。友達と推薦し合うという言語活動を設定し、不思議な出来事が描かれている物語を取り上げることで、物語の全体像や表現の効果を考えることができるようにしよう。	
	この学級の児童は、共通教材を読んで、登場人物の人物像など物語全体から考えたことを推薦する学習（【学習の流れ（別案）】）の経験があるな。だから、今回は、選んだ本を活用する流れ（【学習の流れ】）を進めていこう。学校司書さんにも相談して、様々な描写から人物像や全体像を想像できる物語をいくつか選んでおこう。	
ポイント 年間指導計画等を基に、単元で取り上げる指導事項を明確にすることが重要です。取り上げる指導事項を基に、単元の目標と評価規準を設定し、単元の目標を実現するために適した言語活動を、児童の学習の経験や状況を踏まえて位置付けることが大切です。また、資質・能力の三つの柱の関連を図り、指導の効果を高めることが求められます。本授業アイデア例では、〔知識及び技能〕の(3)オの読書に関する指導事項や「学びに向かう力、人間性等」に関する目標との関連を図り、指導の効果を高めるために、意図的に2時間目と7時間目に、選んだ本を読む活動を設定しています。		

◇ 森田さんたちは、不思議な出来事が描かれている物語を読み、推薦する文章を書いて友達と推薦し合うことにし、どのような観点で物語を読むか考えています。

【板書の例】



教師

みなさんは、これまでに不思議な出来事が描かれている物語を読んだことはありますか。



山村さん

動物と人間が交流したり、恩返ししたりする話を読んだことがあります。動物と人間の関係が面白かったです。



森田さん

あるきっかけで不思議な世界に行き、事件を解決して戻ってくる話を読んだことがあります。他にも、もっと読んでみたいです。



それでは、不思議な出来事が描かれている物語を友達と推薦し合うことにしましょう。これまでの経験として、物語を紹介したり推薦したりするときは、どのようなことを大切にしましたか。



その物語ならではの特徴や面白さを伝えることを大切にしました。物語の展開や登場人物同士の関係などに着目しました。



物語の展開や登場人物同士の関係は、複数の言葉や文を手掛かりにして考えることが大事だったと思います。



これまでに学習したことを読む観点にして、不思議な出来事が描かれている物語を読んで、友達と推薦し合いましょう。今回の学習では、森田さんが言ってくれたように、複数の言葉や文を基にして、物語全体を通して描かれていることを推薦できるようにしましょう。
今回は、図書の先生に物語を紹介していただき、推薦したい物語を選びましょう。

めあて
不思議な出来事が描かれている物語を読み、友達とすいせんし合う。

学習の計画

- ① 見通しをもつ
- ② 物語を選んで読む
- ③ 登場人物の行動や人物像を考える
- ④ 物語全体を通して描かれていることを考えてすいせんする文章を書く
- ⑤ すいせんする文章を読んで交流する
- ⑥ 単元全体をふり返る
- ⑦ 「どんな物語か」を伝えるときは
 - ・登場人物の行動、気持ちの変化
 - ・登場人物の人物像
 - ・登場人物同士の関係
 - ・物語の展開
 - ・様々な表現
 - などに着目

物語全体を通して描かれている

★…この学習で特に着目すること

ポイント

読むことの単元では、本と出合う導入の場面が重要です。単元で取り上げる指導事項や言語活動を踏まえて本を選ぶことや、児童の実態を踏まえて冊数やページ数などを考慮することが大切です。教師が、司書教諭・学校司書等と連携して、本を用意したり、ブックトーク等で紹介したりすることなども考えられます。

これまでに物語を推薦した経験などを想起しながら、読む目的や読みの観点（登場人物の人物像、登場人物の相互関係、物語の展開、表現の効果など）を明確にできるようにすることが大切です。

◇ 森田さんは、登場人物の相互関係に着目して「銀色の幻想」を読み、【全文を掲載したシート】を活用し、付箋を貼りながら、「ぼく」と「老人」の相互関係について考えています。さらに、同じ物語を選んだ友達と交流しながら、付箋を付け足しています。

【全文を掲載したシートの例(一部)】

「ここ、宇宙ものの専門店なの？」
「まあ、そうだ。わしは、他のものには興味がないもんでな。」
「へえ、ぼくもそう。」
「ぼくは、うれしくなつて、ランドセルを床にお
「展示品にさわってもいい？」
「もちろん。」
「いままきみが手にしたやつなんて、なかなか
考えたんじやよ。」
それは、全長三十センチ、直径三センチほどの銀色の宇宙船の模型で、船首の円蓋も、船底の七つの足座も、船体の真ん中につけた大さめの窓も、先頭四角の時間計に「ぼくが描いた宇宙船の絵」にも、よく似てた。
「これ、もしかしたら二人乗り？」
「そうだ、いゝ、もなげに言った。
「でさ、操縦室のほかに、キッチンとトイレとキッチンがついている？」
「さよう。食料がつめる貯蔵庫は？」
「あるよ。食料は、さうにうなすいた。
「すこいや。」
老人は、ぼくが描いた絵とそっくりあることを遠回しに描いている

キヤビンは銀色で統一されたシブシブな空間で、六畳ほど、ベッドをかけたソファがふたつ並ぎわに置かれ、真ん中に船門形のテーブルがある。
そして、壁下側の壁には、一枚の老人のポートレートが飾られていた。
写真の老人は、さきんとしたタキシードを着て、すまじかえつていたけれど、まろしく、ぼくの胸に刺さる老人だった。
「これは、わしが、銀色宇宙船（スペーススウィー）ときき写真なんだ。銀色式が六十九歳の誕生日と
もらつたんだ。」
「え、おじいちゃんには有名な人なんだね。」
「ぼくは言つて、ポートレートの額縁に刻まれた
「(日本・タバコ製煙・科学アカデミー賞受賞記念)」と、あつたのだ。
「ぼく、同じ名前だ。」
「同じ名前か……そんなことは世間ではいくらでもあるが、やはり、ぼくは老人にきらに親近感湧いて、笑ひかけた。
「このワグナー・ポートレート、号、気になつたかね？ この船を乗せたやつなんだよ。」
「それ、ぼくが描いた宇宙船の模型に似てた名前だ。未来から未来へ、時間の壁を越えて自由に飛翔するあの宇宙船に、ひそかに付けられた名前だ。だれにも、教えたこと(ひょっとしたら、老人は六十年未来からやってきたぼく?)と書かれているんだ。ここから、「老人」は未来の「ぼく」かもしれないと考えたよ。他にも二人の関係が分かるころはあるかな。」

だれにも、教えたことがない
↓「老人」は未来の「ぼく」かもしれない

↓「ぼく」かもしれない

【物語の一部】は、野上晩編『ものがたり12か月 秋のものがたり』
(2008年9月 偕成社) 収録 那須田淳『銀色の幻想』による。
問題作成の都合上、一部表記を改めたところがある。



森田さん

僕は、人物の関係に着目したよ。ここに「だれにも、教えたことがなかったのに。」「(ひょっとしたら、老人は六十年未来からやってきたぼく?)」と書かれているんだ。ここから、「老人」は未来の「ぼく」かもしれないと考えたよ。他にも二人の関係が分かるころはあるかな。



山村さん

ほら、ここにも「先週、図工の時間に、ぼくが描いた宇宙船の絵にそっくりだった。」と書かれているよ。「ぼく」と「老人」が何か関係があることを遠回しに描いているのではないかな。



私もそう思う。他にも、「ぼく」がポートレートの額縁に刻まれた文字を見たところで、「同姓同名か……。」という文があるよ。ここからも、「老人」と「ぼく」が同一人物かもしれないと読むことができるよ。



そうだね。「ぼく」と「老人」の関係が描かれているところに着目して物語を読み進めていくと、二人が同一人物であることが遠回しに描かれていることも分かるね。それがこの物語の魅力の一つだと思うな。



教師

登場人物同士の関係は、物語全体を通して描かれている場合が多いですね。森田さんたちが気付いたように、登場人物同士の関係が分かる描写をいくつも見付けて考えることが大切です。

ポイント

登場人物の相互関係は直接的に描写されている場合もありますが、暗示的に表現されている場合もあります。登場人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などに注意して読むことを促し、捉えることができるように指導することが効果的です。

自分一人の読みでは気付かないことでも、交流することで気付くことがあります。ここで取り上げた森田さんが、「ぼく」と「老人」の関係を捉えたいという目的をもって、目的意識をもって交流できるようにすることが大切です。

④⑤／7

物語の全体像を具体的に想像し、推薦する文章を書く

◇ 教師は、児童の状況を踏まえ、物語の全体像について想像したことを、どのように推薦する文章に書くかについて、学級全体で考えてみることにしました。

【板書の例】

物語の全体像

「どのような物語か」を伝えるときは

- ★登場人物の人物像
- ★登場人物同士の関係
- ★物語の展開
- ★様々な表現

などに着目

物語全体を通してえがかれている

「どのようにえがかれているか」を伝えるために使う言葉の例

- 〇〇という一文が
～を印象づけている。
- 〇〇な表現が文章全体に
散りばめられている。
- 〇〇を味わうことができる物語
- 〇〇を通して、
〇〇が伝わってくる物語

めあて

不思議な出来事がえがかれている物語を
すいせんするために、物語の全体像を考えよう。



森田さん

「ぼく」と「老人」が同一人物かもしれないということが、物語全体を通して遠回しに描かれていて、それが、この物語の魅力の一つだと思うな。でも、そのことを推薦する文章で伝えるのが難しいなあ。



教師

森田さんが悩んでいることは、他の物語にも関係することなので、みんなで考えてみましょう。みなさん、物語全体を通して描かれていることを、どのように伝えますか。これまでの学習も思い出してみてください。



山村さん

私は、最後の一文がとても印象に残ったので、「〇〇という一文が、～を印象づけている。」というようにまとめようと思っています。



前に、「〇〇な表現が文章全体に散りばめられている。」や「〇〇を味わうことができる物語」という言葉を使ってまとめました。



なるほど。僕は、登場人物の関係が面白かったので、「この物語は、登場人物同士の関係が表されている表現を探しながら読む楽しさを味わうことができる物語」といった感じで推薦してみようと思います。



ポイント

「どんな物語か」ということだけでなく、「どのように描かれているか」ということにも着目することで、物語の全体像を具体的にイメージすることができ、その物語ならではのよさが明らかになりますね。それでは、「どんな物語か」、「どのように描かれているか」ということに着目して、選んだ物語の全体像を改めて考えて、まとめてみましょう。

物語の全体像を想像する場合、「どんな物語か」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目できるようにすることが大切です。そのためには、推薦する文章をまとめる際に使う言葉などを具体的に考えることができるようにすると効果的です。

⑥／7

友達が書いた推薦する文章を読んで交流する

- ◇ 森田さんたちは、同じ物語を読んだ友達と推薦する文章を読み合い、さらに、他の物語を読んだ友達とも読み合うことにしました。



教師

物語の魅力をどのように捉えたかについて、共通点や相違点は何かを考えながら、同じ物語を読んだ友達と推薦する文章を読み合ひましょう。

読み終わった後も物語の世界にひたることのできるおすすめの作品だ。

【山村さんが書いた推薦する文章】

これは、過去や未来にいけるうちゅう船を作りたいと思っている「ぼく」と、そんなうちゅう船を作った「老人」の物語です。

この物語は、「老人」が未来の「ぼく」かもしれないと思わせる表現をさがして読む楽しさを味わうことができます。それだけでなく、この物語を読むと、わたしは前向きな気持ちになります。なぜかという、「老人」に出会った「ぼく」を通して、この物語がわたしに伝えてくれることがあるからです。それは、夢をもち続ければ、いつかなえられるということです。

【森田さんが書いた推薦する文章】

「銀色の幻想」を、「老人」は未来の「ぼく」かもしれないと考えて読んだ点は、山村さんと共通していたね。山村さんが最後の一文に着目したところが、なるほどなと思ったよ。読み終わった後に物語の世界にひたることのできるのは、「ぼく」が体験した信じられない出来事を情景として表しているからだという考えに納得したよ。何度も出てくる「ススキ」や題名にも関連する「銀色」という表現に何か意味がありそうなので、もう一度読んで考えてみたいな。



森田さん



山村さん

私は、森田さんの推薦する文章を読んで、「銀色の幻想」は、ただ不思議な出来事が描かれている物語というだけではなく、「夢をもち続けられ、いつかなえられる」のように前向きな気持ちにさせてくれるところも、この物語のよさなのだとすることに気付かされたよ。



同じ物語なのに、人によって読み方が違って面白いな。他の物語を読んだ友達は、魅力をどのように捉えたのかな。



では、他の物語を読んだ友達とも、推薦する文章を読み合いましょう。



大野さん

森田さんは、「銀色の幻想」を読んで、前向きな気持ちになったんだね。私が読んだら、どんな気持ちになるのかな。「銀色の幻想」をじっくり読んでみたくなったよ。



森田さん

大野さんの推薦する文章を読んでいると、とても興味深いね。「銀色の幻想」のような読み方をしたら、どんなことが伝わってくるのかな。山村さんのように表現の効果に着目した読み方もしてみたいな。



次の時間は、友達の読み方を参考にしながら、もう一度同じ物語を読んだり、他の物語も読んだりして、単元全体を振り返りましょう。

【6時間目の森田さんの振り返り】



登場人物の気持ちや人物の関係、情景など、物語全体の様々なことを結び付けて考えたことで、物語の世界をより豊かに想像することができるようになりました。

次の時間に他の本を読むときには、表現の効果に着目することも意識していきたいです。

【活用のポイント】

- 本授業アイデア例のように、児童の学習の経験に応じて、学習の展開を工夫することが大切です。
- 本授業アイデア例のように、令和4年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語2の【物語の一部】、【森田さんの文章】、【山村さんの文章】を教材として活用して、学習を展開することが考えられます。

※出典等

【物語の一部】は、野上暁編『ものがたり12か月 秋ものがたり』（2008年9月 偕成社）収録 那須田淳『銀色の幻想』による。問題作成の都合上、一部表記を改めたところがある。